

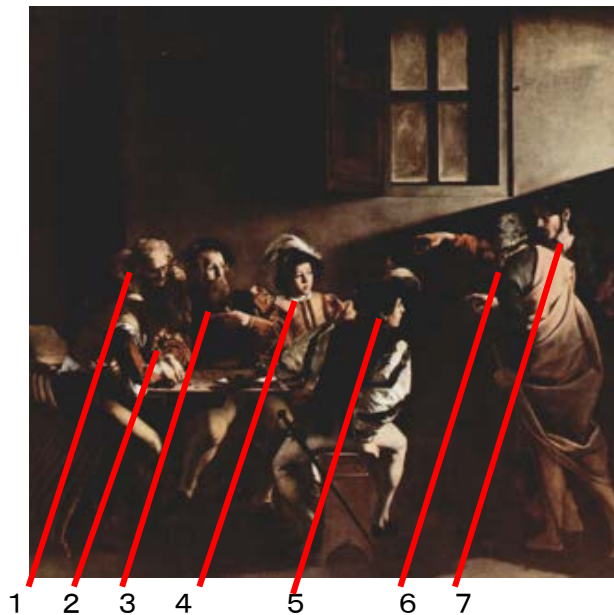
8 1 《聖マタイの召命》

登場人物の役割

2024

真鍋友範

《聖マタイの召命》に於いて、モデル役の登場人物には、カラヴァッジョからどのような役割が課せられたのだろうか。考察してみよう。



1 眼鏡の収税人

イエスに呼ばれる人物役。年配の人を採用している。他の3連作と共通した同じ人物での配役ではないが、当時のマタイ伝の中のマタイのイメージは、恐らく年配の人物であった為だろう。

計算する若い収税人の上役として、真剣に収税作業する部下の様子を管理している。

イエスに呼ばれた段階で、聖書の文言通りに立ち上がる為に、眼鏡の収税人は机に寄りかかる姿勢でポーズを取らせている。

2 うつむいた姿勢で作業する若い収税人

【一心不乱に金銭計算するマタイの部下の収税人の姿】をポーズしている。
右手は、真剣な眼差しでコインを数えつつ、反対側の腰に回した左手には集金袋を握りしめている。左斜め下から見上げると、近くには迫り、意味があるように感じてしまうが、実際は、上記以上の役割上の深い意味はない配役。

3 髭の男

納税に現れた一族の長。真っ先に数メートル先の収税室入り口近くにいるイエス一行の存在に気づき、左手でイエスに質問させている。『ご用があるのは、私ですか、それとも隣の眼鏡の収税人ですか』という内容を、二段階の身体動作で、まず親指を自分の胸に当て、連続して人差し指で隣の眼鏡の収税人を指差す役割だ。また、髭の男は左手での二段階質問動作に並行して、右手はコインを支払おうとしている姿を指示している。帽子には支払い用の予備コインをつけている。自己顕示欲の強い男なのであろう。

4 こちら向きの若い男 納税者の一族その1

恐らくカラヴァッジョの仲間のミニネーティがモデル役。シチリア出身の画家志望の男だった。

この人物の役割は、【イエス一行の位置を示す為に、】数メートル先のイエス一向を凝視する役。視線をイエス一向に注ぐ役割だ。

5 後ろ向きに座る若い男 納税いた者の一族その2

ペテロに向かって質問する役割。同時に腰に吊るす剣の方向を正確に眼鏡の頭の頭頂部に軸線に向けて座る役割。

実は、この剣に沿った上部への軸線には、カラヴァッジョの構想した重要な意味が隠されている。これについては、別途改めて記述予定。

6 ペテロ

ペテロは、背を向けて座る納税者一族の若者からの質問に答え、体を眼鏡の収税人に向けながら、イエスと同じく、『向こうの男だ』というポーズで、右手首を回して答える役割。決して指差しているポーズでは無い。

両足の間の軸線が、眼鏡の収税人に向くよう、このモデル役は指示されている。

7 イエス

イエスは複雑なポーズをしている。ただ指差すだけなら、立ったまま指を真っ直ぐに相手に向ければ良い筈。しかし、そうしていない。

だが、カラヴァッジョは、【複雑な三段階の回答ポーズ】をモデル役に要求している。ここは、説明が必要だ。

まず、髭男の質問に答えると為に、左手を腰の高さに差し上げ、手の平を開いて、相手に見せるよう指示している。次に立ち位置を一步分だけ横に移動する為に、右足を一步左に踏み出すよう指示している。最後に右腕をゆっくり回すよう指示し、『向こう側の人物に用がある』と伝えさせている。同時に『私に従いなさい』と言った場面だ。ポーズの【重要なポイントとして、指差したポーズではないので、手首から先には力を込めない】、という指示であっただろう。

カラヴァッジョは不鮮明な指差しポーズを指示したのではなく、明確に【向こう側の眼鏡の人物を示すポーズ】を、イエス役のモデルに要求していたというのが真実だ。

結論として、カラヴァッジョは、7名の登場人物に対して、細かく、しかも明確、正確なポーズ指示を与えていると推測できる。